

「キリストにはかえられません」

～主の喜びを体験するために～

「¹³私はあなたが住んでいる所を知っている。そこはサタン（悪魔）が王座に着いている所である。それでもあなたは私の名にすがりつき（それをしっかりとつかんで）、私の忠実な者、私の証人であるアンテパスが、サタンの住んでいるあなたたちの間で殉教の死を遂げて殺されたその時でさえも、私への信仰を否認しなかった。」〔訳聖書〕

イエス様が十字架にかかられる前日、最後の晩餐の後に、祈られた祈りの中で、「わたしがお願ひするのは、彼らを世から取り去るのではなく、彼らを悪しき者から守ってくださることです。（ヨハネ17章15節）」と祈られました。イエス様は復活されて勝利を取られましたが、その後、弟子たちを置いて天にお帰りになられます。それから、弟子たちに聖霊が注がれ、そのしばらく後に、大迫害が彼らを襲ってきます。彼らにとっては、「どうして主は私たちを置いて天に帰ってしまったのか？」と思ってしまうような現実が押し寄せてきたことと思いますが、彼らはそんな激しい迫害の戦いの中で、これこそが、主が祈っていたことなのだと理解して、殉教の死もいとわぬ力強い証人としてその時代を生き抜きました。

「サタンの座」と表現されているくらいですから、クリスチャンとして生きていくこと、神の子として生きていくことを頭から踏みつけられるかのようにして潰されそうになっていた状況だった、このペルガモの教会に対して、主は更なる献身とその心、生き方の更なる聖別＝きよめの徹底を要求されました。それほどに、霊的戦いが激しかった、誘惑が大きかったと思われます。

私たちが生きている日本、長野県、この地域は、反キリストであり、キリスト教徒として生きていくことによる弊害ばかりで溢れています。しかし、私たちもこのペルガモの教会のように、どんなことが起こっても、絶対に主に従っていくのだ！最後の最後に勝利の栄冠を受け取るのだ！と宣言していきたいと思ひます。

悪魔、サタンは主の許可があつて行動しています。とするならば、それは私たちのためであつて、私たちがより洗練された信仰を持ち、その恵みを余すところなく経験するために彼らの行動が許可されているのだということです。先ほどのヨハネ福音書の主の祈りの言葉の少し前に、「今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためです。わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではないからです。（ヨハネ17章13・14節）」主イエス様は十字架という想像を絶するお苦しみを目の前にして、喜びを味わっていました。この喜びは一体何だったのでしょか？それは十字架のお苦しみを理解していたが故の喜びであつたと感じます。ですから、私たちは苦しみ、試練を味わうことなしに、主の喜びを理解することはできないのではないかと思ひます。